

各国立公文書館等における利用等規則改正（案）新旧対照表

- 1 独立行政法人国立公文書館利用等規則案
- 2 宮内公文書館利用等規則案
- 3 外務省外交史料館利用等規則案
- 4 北海道大学大学文書館公文書室利用等規程案
- 5 東北大学学術資源研究公開センター史料館公文書室利用等要項案
- 6 筑波大学アーカイブズにおける保存、利用等に関する規程案
- 7 東京大学文書館利用等規則案
- 8 国立大学法人東京外国語大学文書館利用等規程案
- 9 東京工業大学博物館資史料館部門公文書室利用等規程案
- 10 名古屋大学大学文書資料室利用等規程案
- 11 京都大学大学文書館利用等要項案
- 12 大阪大学アーカイブズ特定歴史公文書等利用等規程案
- 13 神戸大学大学文書史料室利用等要項案
- 14 広島大学文書館特定歴史公文書等利用等規則案
- 15 九州大学大学文書館における特定歴史公文書等の利用等に関する規程案
- 16 日本銀行金融研究所アーカイブ利用等規則案

独立行政法人国立公文書館利用等規則案 新旧対照表

(改正部分のみ/傍線部分は改正部分)

改正後	改正前	備考
<p>独立行政法人国立公文書館利用等規則</p> <p>平成23年4月1日規程第4号 改正 平成24年7月9日規程第4号 改正 平成24年10月1日規程第8号 改正 平成24年11月22日規程第11号 改正 平成26年3月28日規程第1号 改正 平成28年3月3日規程第2号 改正 平成28年3月29日規程第5号 改正 平成30年 月 日規程第 号</p> <p>第1章 総則 (目的) 第1条 この規則は、公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号。以下「法」という。)及び国立公文書館法(平成11年法律第79号)に基づき、独立行政法人国立公文書館(以下「館」という。)が保存する特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄について必要な事項を定めることを目的とする。 (定義) 第2条 [略] 2 [略] 3 [略]</p> <p>第2章 保存等 第1節 受入れ (行政機関又は独立行政法人等からの受入れ) 第3条 [略] 2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、次の各号に掲げる措置を施した上で、原則として受入れから1年以内に排架を行うものとする。 一 生物被害への対処その他の保存に必要な措置 二 識別を容易にするために必要な番号等(以下「請求番号」という。)の付与 三 第12条第1項第1号又は第2号に掲げる利用制限事由(以下「利用制限事由」という。)の該当性に関する事前審査</p>	<p>独立行政法人国立公文書館利用等規則</p> <p>平成23年4月1日規程第4号 改正 平成24年7月9日規程第4号 改正 平成24年10月1日規程第8号 改正 平成24年11月22日規程第11号 改正 平成26年3月28日規程第1号 改正 平成28年3月3日規程第2号 改正 平成28年3月29日規程第5号 [新設]</p> <p>第1章 総則 (目的) 第1条 この規則は、公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号。以下「法」という。)及び国立公文書館法(平成11年法律第79号)に基づき、独立行政法人国立公文書館(以下「館」という。)が保存する特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄について必要な事項を定めることを目的とする。 (定義) 第2条 [同左] 2 [同左] 3 [同左]</p> <p>第2章 保存 第1節 受入れ (行政機関又は独立行政法人等からの受入れ) 第3条 [同左] 2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、次の各号に掲げる措置を施した上で、原則として受入れから1年以内に排架を行うものとする。 一 くん蒸その他の保存に必要な措置 二 第7条第4項に定める請求番号の付与 三 第12条第1項第1号又は第2号に掲げる事由(以下「利用制限事由」という。)の該当性に関する事前審査</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>

<p>四 第10条第1項に定める目録の作成</p> <p>3 館は、特定歴史公文書等の利用が円滑に行われるようにするため、前項第3号に規定する事前審査の方針を定めるものとする。</p> <p>(行政機関以外の国の機関からの文書の受入れ)</p> <p>第4条 [略]</p> <p>2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、内閣総理大臣と移管元である国の機関との合意に従い、利用の制限を行う範囲を定め、次の各号に掲げる措置を施した上で、原則として受入れから1年以内に排架を行うものとする。</p> <p>一 第3条第2項第1号に定める措置</p> <p>二 第3条第2項第2号に定める請求番号の付与</p> <p>三 第10条第1項に定める目録の作成 (寄贈・寄託された文書の受入れ)</p> <p>第5条 [略]</p> <p>2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、寄贈又は寄託をした者の希望に応じ、利用の制限を行う範囲及びこれが適用される期間を定めた上で、次の各号に掲げる措置を施した上で、原則として受入れから1年以内に排架を行うものとする。</p> <p>一 第3条第2項第1号に定める措置</p> <p>二 第3条第2項第2号の付与</p> <p>三 第10条第1項に定める目録の作成 (著作権等の調整)</p> <p>第6条 館は、第3条から前条までの規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等に著作物、実演、レコード又は放送若しくは有線放送に係る音若しくは影像(以下この条において「著作物等」という。)が含まれている場合は、当該著作物等について、必要に応じて、あらかじめ著作者、著作権者、実演家又は著作隣接権者から著作者人格権、著作権、実演家人格権又は著作隣接権に関する利用等の許諾や同意を得ること等により、当該特定歴史公文書等の円滑な利用に備えるものとする。</p> <p>第2節 保存 (保存方法等)</p> <p>第7条 館は、特定歴史公文書等について、第30条の規定に基づき廃棄されるに至る場合を除き、専用の書庫(以下「書庫」という。)において永久に保存するものとする。</p> <p>2 館は、前項に定める書庫について、温度、湿度、照度等を適切に管理するとともに、防犯、防災、防虫等のための適切な措置を講ずるものとする。</p> <p>3 [略]</p>	<p>四 第10条第1項に定める目録の作成</p> <p>3 館は、特定歴史公文書等の利用が円滑に行われるようにするため、前項第3号に規定する事前審査の方針を定めるものとする。</p> <p>(行政機関以外の国の機関からの文書の受入れ)</p> <p>第4条 [同左]</p> <p>2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、内閣総理大臣と移管元である国の機関との合意に従い、利用の制限を行う範囲を定め、次の各号に掲げる措置を施した上で、原則として受入れから1年以内に排架を行うものとする。</p> <p>一 <u>くん蒸その他の保存に必要な措置</u></p> <p>二 第7条第4項に定める請求番号の付与</p> <p>三 第10条第1項に定める目録の作成 (寄贈・寄託された文書の受入れ)</p> <p>第5条 [同左]</p> <p>2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、寄贈又は寄託をした者の希望に応じ、利用の制限を行う範囲及びこれが適用される期間を定めた上で、次の各号に掲げる措置を施した上で、原則として受入れから1年以内に排架を行うものとする。</p> <p>一 <u>くん蒸その他の保存に必要な措置</u></p> <p>二 第7条第4項に定める請求番号の付与</p> <p>三 第10条第1項に定める目録の作成 (著作権の調整等)</p> <p>第6条 館は、第3条から前条までの規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等に著作物や実演、レコード又は放送若しくは有線放送に係る音若しくは影像(以下この条において「著作物等」という。)が含まれている場合は、当該著作物等について、必要に応じて、あらかじめ著作者、著作権者、実演家又は著作隣接権者から著作者人格権、著作権、実演家人格権又は著作隣接権に関する利用の許諾や同意を得ること等により、当該特定歴史公文書等の円滑な利用に備えるものとする。</p> <p>第2節 保存 (保存方法等)</p> <p>第7条 館は、特定歴史公文書等について、第30条の規定により廃棄されるに至る場合を除き、専用の書庫において永久に保存するものとする。</p> <p>2 館は、前項に定める専用書庫について、温度、湿度、照度等を適切に管理するとともに、防犯、防災、防虫等のための適切な措置を講ずるものとする。</p> <p>3 [同左]</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
--	---	---

<p>4 館は、特定歴史公文書等について、<u>第3条第2項第2号、第4条第2項第2号及び第5条第2項第2号に定めた請求番号を付する。</u></p> <p>(複製物)</p> <p>第8条 館は、特定歴史公文書等について、<u>それぞれの特定歴史公文書等の内容、保存状態、時の経過、利用の状況等に応じ、適切な保存及び利用を確保するため、計画を定めた上で、適切な記録媒体による複製物を作成する。</u></p> <p>(個人情報漏えい防止のために必要な措置)</p> <p>第9条 館は、特定歴史公文書等に個人情報(生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの(他の情報と照合することができることとなり特定の個人を識別することができることとなるものを含む。)をいう。)が記録されている場合には、<u>法第15条第3項の規定に基づき、当該個人情報の漏えいの防止のため、次の各号に掲げる措置を講じなければならない。</u></p> <p>一 [略]</p> <p>二 当該特定歴史公文書等に記録されている個人情報に対する不正アクセス行為(不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成11年法律第128号)第2条第4項に規定する不正アクセス行為をいう。)を防止するために必要な措置</p> <p>三 [略]</p> <p>四 [略]</p> <p>(目録の作成及び公表)</p> <p>第10条 [略]</p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>三 [略]</p> <p>四 [略]</p> <p>五 [略]</p> <p>六 [略]</p> <p>七 <u>インターネットで利用することができるデジタル画像等の存否</u></p> <p>八 [略]</p> <p>九 [略]</p> <p>2 館は、前項に規定する目録の記載に当たり、<u>法第16条第1項第1号イからニまで若しくは第2号イ若しくはロに掲げる情報又は同項第3号の制限若しくは同項第4号の条件に係る情報は記載しないものとする。</u></p> <p>3 館は、第1項に規定する目録を館に備えて一般の閲覧に供すると</p>	<p>4 館は、特定歴史公文書等について、<u>利用の請求をするために必要な番号等(以下「請求番号」という。)を付する。</u></p> <p>(複製物)</p> <p>第8条 館は、特定歴史公文書等について、<u>その保存及び利便性の向上のために、それぞれの特定歴史公文書等の内容、保存状態、時の経過、利用の状況等を踏まえた計画を定めた上で、適切な記録媒体による複製物を作成する。</u></p> <p>(個人情報漏えい防止のために必要な措置)</p> <p>第9条 館は、特定歴史公文書等に個人情報(生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの(他の情報と照合することができることとなり特定の個人を識別することができることとなるものを含む。)をいう。)が記録されている場合には、<u>法第15条第3項の規定に基づき、当該個人情報の漏えいの防止のため、以下の措置を講ずる。</u></p> <p>一 [同左]</p> <p>二 当該特定歴史公文書等に記録されている個人情報に対する不正アクセス行為(不正アクセス行為の禁止等に関する法律(平成11年法律第128号)第2条第4項に規定する不正アクセス行為をいう。)を防止するために必要な措置</p> <p>三 [同左]</p> <p>四 [同左]</p> <p>(目録の作成及び公表)</p> <p>第10条 [同左]</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>三 [同左]</p> <p>四 [同左]</p> <p>五 [同左]</p> <p>六 [同左]</p> <p>七 <u>利用することができる複製物の存否</u></p> <p>八 [同左]</p> <p>九 [同左]</p> <p>2 館は、前項に規定する目録の記載に当たり、<u>法第16条第1項第1号イからニまで若しくは第2号イ若しくはロに掲げる情報又は同項第3号の制限若しくは同項第4号の条件に係る情報は記載しないものとする。</u></p> <p>3 館は、第1項に規定する目録を閲覧室に備え付けておくとともに、</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
--	---	---

<p>ともに、インターネットの利用等により公表しなければならない。</p> <p>第3章 利用 第1節 利用の請求 (利用請求の手続)</p> <p>第11条 館は、法第16条の規定に基づき、特定歴史公文書等について利用の請求（以下「利用請求」という。）をしようとする者に対し、次の各号に掲げる事項を記載した利用請求書の提出を求めるものとする。</p> <p>一 [略]</p> <p>二 利用請求に係る特定歴史公文書等の請求番号及び目録に記載された名称 [削る。]</p> <p>三 希望する利用の方法（※任意）</p> <p>四 前号で写しの交付による利用を希望する場合は、第20条第2項に定める写しの作成方法、写しを作成する範囲及び部数、写しの交付の方法（※任意）</p> <p>2 [略]</p> <p>3 第1項に規定する提出の方法は、次の各号のいずれかによる。この場合、次の第2号の方法において必要な送料は、利用請求をする者が負担するものとする。</p> <p>一 閲覧室の受付に提出する方法</p> <p>二 館に郵送等する方法</p> <p>三 ファクシミリにより館に送信する方法</p> <p>4 前項第2号及び第3号に定める方法による利用請求については、利用請求書が館に到達した時点で請求がなされたものとみなす。</p> <p>5 [略] (利用請求の取扱い)</p> <p>第12条 館は、特定歴史公文書等について前条に定める利用請求があった場合には、次に掲げる場合を除き、これを利用させなければならない。</p> <p>一 [略]</p> <p>イ 行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成11年法律第42号。以下「行政機関情報公開法」という。）第5条第1号に掲げる情報 [口～ニ 略]</p> <p>二 [略]</p> <p>イ 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号。以下「独立行政法人等情報公開法」という。）第5条第1号に掲げる情報</p>	<p>インターネットの利用等により公表する。</p> <p>第3章 利用 第1節 利用の請求 (利用請求の手続)</p> <p>第11条 館は、法第16条の規定に基づき、特定歴史公文書等について利用の請求（以下「利用請求」という。）をしようとする者に対し、次の各号に掲げる事項を記載した利用請求書の提出を求めるものとする。</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 利用請求に係る特定歴史公文書等の目録に記載された名称</p> <p>三 利用請求に係る特定歴史公文書等の請求番号</p> <p>四 希望する利用の方法（任意）</p> <p>五 前号で写しの交付による利用を希望する場合は、第20条第2項に定める写しの作成方法、写しを作成する範囲及び部数、同条第5項に定める交付の方法（任意）</p> <p>2 [同左]</p> <p>3 第1項に規定する提出の方法は、閲覧室の受付に提出する方法又は館に郵送する方法によるものとする。なお、郵送する方法による場合において必要な郵送料は、利用請求をする者が負担するものとする。</p> <p>4 前項の館に郵送する方法による利用請求については、利用請求書が館に到達した時点で請求がなされたものとみなす。</p> <p>5 [同左] (利用請求の取扱い)</p> <p>第12条 館は、特定歴史公文書等について前条に定める利用請求があった場合には、次に掲げる場合を除き、これを利用に供するものとする。</p> <p>一 [同左]</p> <p>イ 行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成11年法律第42号。以下「行政機関情報公開法」という。）第5条第1号に掲げる情報 [口～ニ 略]</p> <p>二 [同左]</p> <p>イ 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号。以下「独立行政法人等情報公開法」という。）第5条第1号に掲げる情報</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドラインに基づき、利用請求の手続きの明確化を図るため修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
---	---	--

<p>口 [略]</p> <p>三 [略]</p> <p>四 [略]</p> <p>五 当該特定歴史公文書等の原本を利用に供することにより当該原本の破損若しくは汚損を生ずるおそれがある場合又は当該原本が現に使用されている場合</p> <p>2 館は、利用請求に係る特定歴史公文書等が前項第1号又は第2号に該当するか否かについて判断するに当たっては、当該特定歴史公文書等が行政文書又は法人文書として作成又は取得されてからの時の経過を考慮するとともに、当該特定歴史公文書等に法第8条第3項又は第11条第5項の規定による意見が付されている場合には、当該意見を参酌しなければならない。</p> <p>3 館は、前項において時の経過を考慮するに当たっては、利用制限は原則として作成又は取得されてから<u>30年</u>を超えないものとする考え方を踏まえるものとする。</p> <p>(部分利用)</p> <p>第13条 館は、前条第1項第1号から第4号までに掲げる場合であっても、同項第1号イからニまで若しくは第2号イ若しくはロに掲げる情報又は同項第3号の制限若しくは同項第4号の条件に係る情報(以下「利用制限情報」という。)が記録されている部分を容易に区分して除くことができるときは、利用請求者に対し、当該部分を除いた部分を利用させなければならない。ただし、当該部分を除いた部分に有意の情報が記録されていないと認められるときは、この限りでない。</p> <p>2 前項に規定する区分は、次の各号に掲げる特定歴史公文書等の種類に応じ、当該各号に掲げる方法により行う。</p> <p>一 文書又は図画 当該特定歴史公文書等の写しを作成し、当該写しに記載されている利用制限情報を黒塗りする方法又は利用制限情報が記載されている範囲を被覆する方法</p> <p>二 [略]</p> <p>(本人情報の取扱い)</p> <p>第14条 館は、第12条第1項第1号イ又は第2号イに掲げる情報により識別される特定の個人(以下この条において「本人」という。)から、当該情報が記録されている特定歴史公文書等について利用請求があった場合において、次の各号のいずれかに掲げる書類の提示又は提出があったときは、本人の生命、健康、生活又は財産を害するおそれがある情報が記録されている場合を除き、当該特定歴史公文書等につき当該情報が記録されている部分についても、<u>利用させなければならない</u>。</p> <p>一 利用請求をする者の氏名及び住所又は居所と同一の情報が記載</p>	<p>口 [同左]</p> <p>三 [同左]</p> <p>四 [同左]</p> <p>五 当該特定歴史公文書等の原本を利用に供することにより当該原本の破損若しくはその汚損を生ずるおそれがある場合又は当該原本が現に使用されている場合</p> <p>2 館は、利用請求に係る特定歴史公文書等が前項第1号又は第2号に該当するか否かについて判断するに当たっては、当該特定歴史公文書等が行政文書又は法人文書として作成又は取得されてからの時の経過を考慮するとともに、当該特定歴史公文書等に法第8条第3項又は第11条第5項の規定による意見が付されている場合には、当該意見を参酌する。</p> <p>3 館は、前項において時の経過を考慮するに当たっては、利用制限は原則として作成又は取得されてから<u>30年</u>を超えないものとする考え方を踏まえるものとする。</p> <p>(部分利用)</p> <p>第13条 館は、前条第1項第1号から第4号までに掲げる場合であっても、同項第1号イからニまで若しくは第2号イ若しくはロに掲げる情報又は同項第3号の制限若しくは同項第4号の条件に係る情報(以下「利用制限情報」という。)が記録されている部分を容易に区分して除くことができるときは、利用請求者に対し、当該部分を除いた部分を利用させなければならない。ただし、当該部分を除いた部分に有意の情報が記録されていないと認められるときは、この限りでない。</p> <p>2 前項に規定する区分の方法は、次の各号に掲げる特定歴史公文書等の種類に応じ、当該各号に掲げる方法とする。</p> <p>一 文書又は図画 当該特定歴史公文書等の写しを作成し、当該写しに記載されている利用制限情報を墨塗りする方法又は利用制限情報が記載されている範囲を被覆する方法</p> <p>二 [同左]</p> <p>(本人情報の取扱い)</p> <p>第14条 館は、第12条第1項第1号イ又は第2号イに掲げる情報により識別される特定の個人(以下この条において「本人」という。)から、当該情報が記録されている特定歴史公文書等について利用請求があった場合において、次の各号のいずれかに掲げる書類の提示又は提出があったときは、本人の生命、健康、生活又は財産を害するおそれがある情報が記録されている場合を除き、当該特定歴史公文書等につき当該情報が記録されている部分についても、<u>利用に供するものとする</u>。</p> <p>一 利用請求をする者の氏名及び住所又は居所と同一の氏名及び住</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
--	---	--

されている運転免許証、健康保険の被保険者証、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第2条第7項に規定する個人番号カード、出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）第19条の3に規定する在留カード、日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法（平成3年法律第71号）第7条第1項に規定する特別永住者証明書その他法律又はこれに基づく命令の規定により交付された書類であって、当該利用請求をする者が本人であることを確認するに足りるもの

二 [略]

2 第11条第3項第2号又は第3号に定める方法により利用請求をする場合には、前項の規定にかかわらず、当該利用請求者は前項1号及び第2号に掲げる書類のいずれかを複写機により複写したものと及びその者の住民票の写しその他のその者が当該複写したものに記載された本人であることを示すものとして館が適当と認める書類（利用請求をする日前30日以内に作成されたものに限る。）を館に提出すれば足りる。

（第三者に対する意見提出機会の付与等）

第15条 館は、利用請求に係る特定歴史公文書等に国、独立行政法人等、地方公共団体、地方独立行政法人及び利用請求者以外の者（以下この条において「第三者」という。）に関する情報が記録されている場合には、当該特定歴史公文書等を利用させるか否かについての決定をするに当たって、当該情報に係る第三者に対し、次の各号に掲げる事項を通知して、法第18条第1項の規定に基づく意見書を提出する機会を与えることができる。

一 [略]

二 [略]

三 [略]

四 [略]

2 館は、第三者に関する情報が記録されている特定歴史公文書等の利用をさせようとする場合であって、当該情報が行政機関情報公開法第5条第1号口若しくは第2号ただし書に規定する情報（独立行政法人等情報公開法第5条第1号口若しくは第2号ただし書に規定する情報）に該当すると認めるときは、利用させる旨の決定に先立ち、当該第三者に対し、次の各号に掲げる事項を書面により通知して、法第18条第2項の規定に基づく意見書を提出する機会を与えなければならない。ただし、当該第三者の所在が判明しない場合は、この限りでない。

一 [略]

所又は居所が記載されている運転免許証、健康保険の被保険者証、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第2条第7項に規定する個人番号カード、出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）第19条の3に規定する在留カード、日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法（平成3年法律第71号）第7条第1項に規定する特別永住者証明書その他法律又はこれに基づく命令の規定により交付された書類であって、当該利用請求をする者が本人であることを確認するに足りるもの

二 [同左]

2 第11条第3項に規定する館に郵送する方法により利用請求をする場合には、当該利用請求をする者は、前項の規定にかかわらず、同項各号に掲げる書類のいずれかを複写機により複写したものと及びその者の住民票の写しその他のその者が当該複写したものに記載された本人であることを示すものとして館が適当と認める書類（利用請求をする日前30日以内に作成されたものに限る。）を館に提出すれば足りるものとする。

（第三者に対する意見提出機会の付与等）

第15条 館は、利用請求に係る特定歴史公文書等に国、独立行政法人等、地方公共団体、地方独立行政法人及び利用請求をした者以外の者（以下この条において「第三者」という。）に関する情報が記録されている場合には、当該特定歴史公文書等を利用させるか否かについての決定をするに当たって、当該情報に係る第三者に対し、次の各号に掲げる事項を通知して、法第18条第1項の規定に基づく意見書を提出する機会を与えることができる。

一 [同左]

二 [同左]

三 [同左]

四 [同左]

2 館は、第三者に関する情報が記録されている特定歴史公文書等の利用をさせようとする場合であって、当該情報が行政機関情報公開法第5条第1号口若しくは第2号ただし書に規定する情報（独立行政法人等情報公開法第5条第1号口若しくは第2号ただし書に規定する情報）に該当すると認めるときは、利用させる旨の決定に先立ち、当該第三者に対し、次の各号に掲げる事項を書面により通知して、法第18条第2項の規定に基づく意見書を提出する機会を与えなければならない。ただし、当該第三者の所在が判明しない場合は、この限りでない。

一 [同左]

ガイドライン改正に基づき追記するもの。

ガイドライン改正に基づき修正するもの。

<p>二 [略]</p> <p>三 <u>法第18条第2項の規定を適用する理由</u></p> <p>四 [略]</p> <p>五 [略]</p> <p>3 館は、特定歴史公文書等であって法第16条第1項第1号ハ又は二に該当するものとして同法第8条第3項の規定により意見を付されたものを利用させる旨の決定をする場合には、あらかじめ、当該特定歴史公文書等を移管した行政機関の長に対し、次の各号に掲げる事項を書面により通知して、法第18条第3項の規定に基づく意見書を提出する機会を与えなければならない。</p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>三 [略]</p> <p>四 [略]</p> <p>五 [略]</p> <p>4 館は、第1項又は第2項の規定により意見書を提出する機会を与えられた第三者が当該特定歴史公文書等を利用させることに反対の意思を表示した意見書(以下「<u>反対意見書</u>」という。)を提出した場合において、当該特定歴史公文書等を利用させる旨の決定をするときは、その決定の日と利用させる日との間に少なくとも2週間を置かなければならない。この場合において、館は、その決定後直ちに、当該反対意見書を提出した第三者に対し、法第18条第4項の規定に基づき利用させる旨の決定をした旨及びその理由並びに利用させる日を書面により通知しなければならない。</p> <p>(利用決定)</p> <p>第16条 館は、利用請求があった場合は速やかに、これに係る処分についての決定(以下「<u>利用決定</u>」という。)をしなければならない。ただし、利用制限事由の存否に係る確認作業が必要な場合その他の時間を要する事情がある場合は、利用請求があった日から30日以内に利用決定をするものとする。この場合において、館が第11条第5項の規定により補正を求めたときは、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。</p> <p>2 [略]</p> <p>一 全部の利用を認めること(ただし、法第19条ただし書の規定に基づき写しを閲覧させる方法を用いる場合にはその旨を明記すること。次号において同じ。)</p> <p>二 [略]</p> <p>三 [略]</p> <p>3 館は、利用決定に関し、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、第1項の規定にかかわらず、第1項ただし書に規定する</p>	<p>二 [同左]</p> <p>三 <u>利用請求に係る特定歴史公文書等の利用をさせようとする理由</u></p> <p>四 [同左]</p> <p>五 [同左]</p> <p>3 館は、特定歴史公文書等であって法第16条第1項第1号ハ又は二に該当するものとして同法第8条第3項の規定により意見を付されたものを利用させる旨の決定をする場合には、あらかじめ、当該特定歴史公文書等を移管した行政機関の長に対し、次の各号に掲げる事項を書面により通知して、法第18条第3項の規定に基づく意見書を提出する機会を与えなければならない。</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>三 [同左]</p> <p>四 [同左]</p> <p>五 [同左]</p> <p>4 館は、第1項又は第2項の規定により意見書を提出する機会を与えられた第三者が当該特定歴史公文書等を利用させることに反対の意思を表示した意見書を提出した場合において、当該特定歴史公文書等を利用させる旨の決定をするときは、その決定の日と利用させる日との間に少なくとも2週間を置かなければならない。この場合において、館は、その決定後直ちに、当該意見書(第22条において「<u>反対意見書</u>」という。)を提出した第三者に対し、法第18条第4項の規定に基づき利用させる旨の決定をした旨及びその理由並びに利用させる日を書面により通知しなければならない。</p> <p>(利用決定)</p> <p>第16条 館は、利用請求があった場合は速やかに、これに係る処分についての決定(以下「<u>利用決定</u>」という。)をしなければならない。ただし、利用制限事由の存否に係る確認作業が必要な場合その他の時間を要する事情がある場合は、利用請求があった日から30日以内に利用決定をするものとする。この場合において、館が第11条第5項の規定により補正を求めたときは、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。</p> <p>2 [同左]</p> <p>一 全部の利用を認めること(ただし、法第19条ただし書の規定に基づき写しを閲覧させる方法を用いる場合にはその旨を明記すること。次号において同じ。)</p> <p>二 [同左]</p> <p>三 [同左]</p> <p>3 館は、利用決定に関し、事務処理上の困難その他正当な理由があるときは、第1項の規定にかかわらず、同項ただし書に規定する期</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
---	--	---

<p>期間を<u>30日</u>以内に限り延長することができる。この場合において、館は、利用請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を通知するものとする。</p> <p>4 館は、利用請求に係る特定歴史公文書等が著しく大量であるため、利用請求があった日から<u>60日</u>以内にその<u>全て</u>について利用決定をすることにより事務の遂行に著しい支障が生ずるおそれがある場合には、第1項及び前項の規定にかかわらず、利用請求に係る特定歴史公文書等のうちの相当の部分につき当該期間内に利用決定をし、残りの部分については相当の期間内に利用決定をすることができる。この場合において、館は、<u>利用請求があった日から30日以内</u>(第11条第5項の規定による補正に要した日数を除く。)に、利用請求者に対し、<u>次の各号に掲げる事項を</u>書面により通知しなければならない。</p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>(利用決定の通知)</p> <p>第17条 館は、利用決定をした場合、当該特定歴史公文書等の利用請求者に対して、<u>次の各号に掲げる事項</u>について記載した通知書(以下「利用決定通知書」という。)により決定の内容を通知しなければならない。</p> <p>一 [略]</p> <p>二 利用請求書において請求した利用が認められない場合(法第19条ただし書の適用により原本の閲覧が認められない場合を含む)はその理由</p> <p>三 [略]</p> <p>2 [略]</p> <p>3 通知は、閲覧室で行うほか、利用請求者の求めに応じ、<u>郵送等</u>により行う。</p> <p>(利用の方法)</p> <p>第18条 [略]</p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>三 [略]</p> <p>2 [略]</p> <p>3 [略]</p> <p>4 利用の方法申出書は、利用決定の通知があった日から<u>30日</u>以内での提出を求める。ただし、利用請求者において、当該期間内に当該申出をすることができないことにつき正当な理由があるときは、この限りでない。</p> <p>5 利用の方法申出書の提出の方法については、<u>第11条第3項</u>の規定</p>	<p>間を<u>30日</u>以内に限り延長することができる。この場合において、館は、利用請求者に対し、遅滞なく、延長後の期間及び延長の理由を通知するものとする。</p> <p>4 館は、利用請求に係る特定歴史公文書等が著しく大量であるため、利用請求があった日から<u>60日</u>以内にその<u>すべて</u>について利用決定をすることにより事務の遂行に著しい支障が生ずるおそれがある場合には、第1項及び前項の規定にかかわらず、利用請求に係る特定歴史公文書等のうちの相当の部分につき当該期間内に利用決定をし、残りの部分については相当の期間内に利用決定をすることができる。この場合において、館は、<u>利用請求があった日の翌日から30日以内</u>(第11条第5項の規定により補正に要した日数を除く。)に、利用請求者に対し、<u>次に掲げる事項を</u>書面により通知しなければならない。</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>(利用決定の通知)</p> <p>第17条 館は、利用決定をした場合、当該特定歴史公文書等の利用請求者に対して、<u>以下の事項</u>について記載した通知書(以下「利用決定通知書」という。)により決定の内容を通知しなければならない。</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 利用請求書において請求した利用が認められない場合(法第19条ただし書の適用により原本の閲覧が認められない場合を含む)はその理由</p> <p>三 [同左]</p> <p>2 [同左]</p> <p>3 通知は、閲覧室で行うほか、利用請求者の求めに応じ、<u>郵送</u>により行う。</p> <p>(利用の方法)</p> <p>第18条 [同左]</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>三 [同左]</p> <p>2 [同左]</p> <p>3 [同左]</p> <p>4 利用の方法申出書は、利用決定の通知があった日から<u>30日</u>以内での提出を求めるものとする。ただし、利用請求者において、当該期間内に当該申出をすることができないことにつき正当な理由があるときは、この限りでない。</p> <p>5 利用の方法申出書の提出の方法については、<u>第11条第3項</u>の規</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
---	--	---

<p>を準用する。</p> <p>(閲覧の方法等)</p> <p>第19条 [略]</p> <p>2 [略]</p> <p>(写しの交付の方法等)</p> <p>第20条 特定歴史公文書等の写しの交付は、当該特定歴史公文書等の部について行うほか、その一部についても行うことができる。この場合において、館は、利用請求者に対し、具体的な範囲の特定を求める。</p> <p>2 写しの交付は、次の各号に掲げる特定歴史公文書等の媒体について、当該各号に定めるものの中から館が指定した方法のうち、利用請求者の希望するものについて、利用請求者から部数の指定を受けた上で実施するものとする。</p> <p>一 文書又は図画(法第16条第3項の規定に基づく利用のために作成された複製物を含む。次号において同じ。)</p> <p>イ 用紙に複写したもの(法第16条第3項の規定に基づく利用のために作成された複製物に限る。)</p> <p>[削る。]</p> <p>[削る。]</p> <p>ロ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を用紙に出力したもの</p> <p>ハ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を光ディスクに複写したもの</p> <p>二 電磁的記録</p> <p>イ [略]</p> <p>ロ [略]</p> <p>3 [略]</p> <p>4 [略]</p> <p>5 写しの交付は、館において行うほか、利用請求者の求めに応じ、<u>郵送等</u>により行うことができる。この場合において必要な<u>送料</u>は、利用請求者が負担するものとする。</p> <p>(手数料等)</p> <p>第21条 [略]</p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>2 [略]</p> <p>3 [略]</p> <p>(審査請求)</p> <p>第22条 館は、法第21条第1項の規定に基づく審査請求があったと</p>	<p>定を準用するほか、<u>ファクシミリにより館に送信する方法により行うこともできる。</u></p> <p>(閲覧の方法等)</p> <p>第19条 [同左]</p> <p>2 [同左]</p> <p>(写しの交付の方法等)</p> <p>第20条 特定歴史公文書等の写しの交付は、当該特定歴史公文書等の部について行うほか、その一部についても行うことができる。この場合において、館は、利用請求者に対し、具体的な範囲の特定を求めるものとする。</p> <p>2 写しの交付は、次の各号に掲げる特定歴史公文書等の媒体について、当該各号に定めるものの中から館が指定した方法のうち、利用請求者の希望するものについて、利用請求者から部数の指定を受けた上で実施するものとする。</p> <p>一 文書又は図画(法第16条第3項の規定に基づく利用のために作成された複製物を含む。次号において同じ。)</p> <p>イ 用紙に複写したもの(法第16条第3項の規定に基づく利用のために作成された複製物に限る。)</p> <p>ロ <u>撮影したマイクロフィルムのネガ</u></p> <p>ハ <u>ロを用紙に出力したもの</u></p> <p>ニ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を用紙に出力したもの</p> <p>ホ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を光ディスクに複写したもの</p> <p>二 電磁的記録</p> <p>イ [同左]</p> <p>ロ [同左]</p> <p>3 [同左]</p> <p>4 [同左]</p> <p>5 写しの交付は、館において行うほか、利用請求者の求めに応じ、<u>郵送</u>により行うことができる。この場合において必要な<u>費用</u>は、利用請求者が負担するものとする。</p> <p>(手数料等)</p> <p>第21条 [同左]</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>2 [同左]</p> <p>3 [同左]</p> <p>(審査請求)</p> <p>第22条 館は、法第21条の規定に基づく審査請求があったときは、</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
---	---	--

<p>きは、次の各号のいずれかに該当する場合を除き、<u>法第 28 条第 1 項に基づく公文書管理委員会（以下「公文書管理委員会」という。）に法第 21 条第 4 項に基づく諮問をしなければならない。</u></p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>2 館は、前項の規定により諮問をした場合は、<u>次の各号に掲げる者</u>に対し、<u>諮問をした旨を通知しなければならない。</u></p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>三 [略]</p> <p>3 <u>第 15 条第 4 項の規定は、次の各号のいずれかに該当する判決をする場合について準用する。</u></p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>4 館は、公文書管理委員会から第 1 項の諮問に対する答申を受けた場合は、<u>当該答申を踏まえ、遅滞なく判決をしなければならない。</u></p> <p>第 2 節 利用の促進 (簡便な方法による利用等)</p> <p><u>第 23 条</u> 館は、<u>法第 16 条において利用が認められている特定歴史公文書等</u>について、前節に定める手続のほか、別に定めるところによる簡便な方法（次項に定めるものを除く。）により利用に供することができる。</p> <p>2 [略] (展示会の開催等)</p> <p><u>第 24 条</u> [略] (特定歴史公文書等の貸出し)</p> <p><u>第 25 条</u> [略] (原本の特別利用)</p> <p><u>第 26 条</u> 館は、原本の利用を認めるとその保存に支障を生ずるおそれがある特定歴史公文書等について、複製物によっては利用目的を果たすことができない場合等原本による利用が必要と認められる場合は、<u>館が別に定めるところにより、特に慎重な取扱いを確保した上で、当該原本の利用を希望する者に対し特別に原本を利用に供することができる。</u></p> <p>(レファレンス)</p> <p><u>第 27 条</u> 館は、特定歴史公文書等の効果的な利用を確保するため、レファレンスを行う。ただし、鑑定の依頼、文書の解説・翻訳等、館の業務として情報提供することが適当でないと認められる場合はこの限りでない。</p> <p>[削る。]</p>	<p>次の各号のいずれかに該当する場合を除き、<u>公文書管理委員会に諮問する。</u></p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>2 館は、前項の規定により諮問をした場合は、<u>次に掲げる者</u>に対し、<u>諮問をした旨を通知する。</u></p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>三 [同左]</p> <p>3 <u>第 15 条第 4 項の規定は、次の各号のいずれかに該当する判決をする場合について準用する。</u></p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>4 館は、公文書管理委員会から第 1 項の諮問に対する答申を受けた場合は、<u>当該答申を踏まえ、遅滞なく判決を行うものとする。</u></p> <p>第 2 節 利用の促進 (簡便な方法による利用等)</p> <p><u>第 23 条</u> 館は、<u>法第 16 条において利用が認められている特定歴史公文書等</u>について、前節に定める手続のほか、別に定めるところによる簡便な方法（次項に定めるものを除く。）により利用に供することができる。</p> <p>2 [略] (展示会の開催等)</p> <p><u>第 24 条</u> [同左] (特定歴史公文書等の貸出し)</p> <p><u>第 25 条</u> [同左] (原本の特別利用)</p> <p><u>第 26 条</u> 館は、原本の利用を認めるとその保存に支障を生ずるおそれがある特定歴史公文書等について、複製物によっては利用目的を果たすことができない場合等原本による利用が必要と認められる場合は、<u>館が別に定めるところにより、特に慎重な取扱いを確保した上で、利用者に対し特別に原本を利用に供することができる。</u></p> <p>(レファレンス)</p> <p><u>第 27 条</u> 館は、特定歴史公文書等の効果的な利用を確保するため、<u>次に掲げるレファレンス</u>を行う。ただし、鑑定の依頼、文書の解説・翻訳等、館の業務として情報提供することが適当でないと認められる場合はこの限りでない。</p> <p>一 特定歴史公文書等の利用に関する情報の提供</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
--	---	--

<p>[削る。] [削る。] [削る。]</p> <p>2 館は、閲覧室の開室時間中、口頭、電話、書面その他の方法により、レファレンスに係る利用を希望する者の申込みを受け付けることができる。</p> <p>第3節 移管元行政機関等の利用 (移管元行政機関等の利用)</p> <p>第28条 館は、<u>移管元行政機関等</u>が、<u>法第24条</u>に定める利用の適用を求める場合は、<u>当該利用請求者に対して身分証の提示及び移管元行政機関等利用請求書の提出を求める</u>。</p> <p>2 移管元行政機関等に属する利用者が館の外での閲覧を希望した場合、館は、<u>第19条の規定にかかわらず、30日以内を限度として、その閲覧を認めることができる。</u></p> <p>第4節 利用時間及び休館日 (館の開館等)</p> <p>第29条 [略]</p> <p>一 [略]</p> <p>二 [略]</p> <p>三 東京本館及びつくば分館 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、<u>12月28日から翌年の1月4日までの日及びその他法令により休日に定められた日</u></p> <p>2 [略]</p> <p>3 [略]</p> <p>4 館の利用時間は午前9時<u>15分</u>から午後5時までとする。ただし、特に必要がある場合には、<u>臨時に変更することができる</u>。この場合には、館は、事前にその旨及び理由を公表しなければならない。</p> <p>第4章 廃棄 (特定歴史公文書等の廃棄)</p> <p>第30条 館は、特定歴史公文書等として保存している文書について、劣化が極限まで進展して判読も修復も不可能で利用できなくなり、歴史資料として重要でなくなったと認める場合には、内閣総理大臣に協議し、その同意を得て、当該特定歴史公文書等を廃棄することができる。</p> <p>2 [略]</p>	<p>二 <u>特定歴史公文書等の目録に関する情報の提供</u></p> <p>三 <u>特定歴史公文書等の検索方法に係る情報の提供</u></p> <p>四 <u>特定歴史公文書等に関する参考文献、他の公文書館等に関する情報の提供</u></p> <p>2 <u>レファレンスは、閲覧室の開室時間中は随時、口頭、電話、書面その他の方法により、申し込むことができるものとする。</u></p> <p>第3節 移管元行政機関等の利用 (移管元行政機関等の利用)</p> <p>第28条 館は、<u>特定歴史公文書等を移管した行政機関の長又は独立行政法人等（以下「移管元行政機関等」という。）が、法第24条に定める利用の適用を求める場合は、身分証の提示及び移管元行政機関等利用請求書の提出を求めるものとする。</u></p> <p>2 移管元行政機関等に属する利用者が館の外での閲覧を希望した場合、館は、<u>第19条の規定にかかわらず、1箇月を限度として、その閲覧を認めることができる。</u></p> <p>第4節 利用時間及び休館日 (館の開館等)</p> <p>第29条 [同左]</p> <p>一 [同左]</p> <p>二 [同左]</p> <p>三 東京本館及びつくば分館 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、<u>12月28日</u>から翌年の1月4日までの日及びその他法令により休日に定められた日</p> <p>2 [同左]</p> <p>3 [同左]</p> <p>4 館の利用時間は午前9時<u>15分</u>から午後5時までとする。ただし、特に必要がある場合には、<u>臨時に変更することができる</u>。この場合には、館は、事前にその旨及び理由を公表しなければならない。</p> <p>第4章 廃棄 (特定歴史公文書等の廃棄)</p> <p>第30条 館は、特定歴史公文書等として保存している文書について、劣化が極限まで進展して判読及び修復が不可能で利用できなくなり、歴史資料として重要でなくなったと認める場合には、内閣総理大臣に協議し、その同意を得て、当該特定歴史公文書等を廃棄することができる。</p> <p>2 [同左]</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
---	---	---

<p>第5章 研修 (研修の実施)</p> <p>第31条 館は、その職員に対し、歴史公文書等を適切に保存し利用に供するために必要な専門的知識及び技能を習得させ並びに向上させるために必要な研修を行うものとする。</p> <p>2 館は、行政機関及び独立行政法人等の職員に対し、歴史公文書等の適切な保存及び移管を確保するために必要な知識及び技能を習得させ並びに向上させるために必要な研修を行うものとする。</p> <p>3 館は、第1項及び前項に規定する研修を実施するときは、その必要性を把握し、その結果に基づいて研修の計画を立てなければならない。</p> <p>4 館は、第1項及び第2項に規定する研修を実施したときは、研修計画の改善並びに歴史公文書等の適切な保存及び移管の改善に資するため、<u>研修効果の把握に努めるものとする。</u></p> <p>第6章 雑則 (保存及び利用の状況の報告)</p> <p>第32条 [略]</p> <p>2 [略] (利用等規則の備付け等)</p> <p>第33条 [略] (実施規程)</p> <p>第34条 [略]</p> <p>附則</p> <p>1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。</p> <p>2 独立行政法人国立公文書館利用規則(平成13年規程第7号)は廃止する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成24年7月9日から施行する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成24年10月1日から施行する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成24年11月22日から施行する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成26年4月1日から施行する。</p>	<p>第5章 研修 (研修の実施)</p> <p>第31条 館は、その職員に対し、歴史公文書等を適切に保存し利用に供するために必要な専門的知識及び技能を習得させ、及び向上させるために必要な研修を行うものとする。</p> <p>2 館は、行政機関及び独立行政法人等の職員に対し、歴史公文書等の適切な保存及び移管を確保するために必要な知識及び技能を習得させ、及び向上させるために必要な研修を行うものとする。</p> <p>3 館は、第1項及び第2項に規定する研修の実施に当たっては、その必要性を把握し、その結果に基づいて研修の計画を立てなければならない。</p> <p>4 館は、第1項及び第2項に規定する研修を実施したときは、研修計画の改善<u>その他歴史公文書等の適切な保存及び移管の改善に資するため、その効果の把握に努めるものとする。</u></p> <p>第6章 雑則 (保存及び利用の状況の報告)</p> <p>第32条 [同左]</p> <p>2 [同左] (利用等規則の備付け等)</p> <p>第33条 [同左] (実施規程)</p> <p>第34条 [同左]</p> <p>附則</p> <p>1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。</p> <p>2 独立行政法人国立公文書館利用規則(平成13年規程第7号)は廃止する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成24年7月9日から施行する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成24年10月1日から施行する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成24年11月22日から施行する。</p> <p>附則 この規則改正は、平成26年4月1日から施行する。</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>
---	---	---

附 則

この規則改正は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則改正は、平成 30 年〇月〇日から施行する。

別表（第 20 条関係）

特定歴史公文書等の媒体	写しの交付の実施の方法	実施手数料の額
一 文書又は図画（法第 16 条第 3 項の規定に基づく利用のために作成された複製物を含む。）	イ 複写機により用紙に複写したものの交付（法第 16 条第 3 項の規定に基づく利用のために作成された複製物に限る。）	用紙 1 枚につき 40 円（B4 判及び A3 判についても同じ。）
	[削る。]	[削る。]
	[削る。]	[削る。]
	ロ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を用紙に出力したものの交付	用紙 1 枚につき 110 円（B4 判については 130 円、A3 判については 170 円） カラー出力については 130 円（B4 判については 150 円、A3 判については 190 円）
ハ一 1 スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を光ディスク（日本工業規格 X0606 及び X6281 に適合する直径 120 ミリメートル	光ディスク 1 枚につき 300 円に当該文書又は図画 1 枚ごとに 70 円を加えた額	

附 則

この規則改正は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

[新設]

別表（第 20 条関係）

特定歴史公文書等の媒体	写しの交付の実施の方法	実施手数料の額
一 文書又は図画（法第 16 条第 3 項の規定に基づく利用のために作成された複製物を含む。）	イ 複写機により用紙に複写したものの交付（法第 16 条第 3 項の規定に基づく利用のために作成された複製物に限る。）	用紙 1 枚につき 40 円（B4 判及び A3 判についても同じ。）
	ロ 撮影したモノクロマイクروفイルムのネガの交付	1 コマの撮影につき 70 円
	ハ 撮影したモノクロマイクروفイルムを用紙に出力したものの交付	用紙 1 枚につき 130 円（B4 判については 150 円、A3 判については 190 円）
	ニ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を用紙に出力したものの交付	用紙 1 枚につき 110 円（B4 判については 130 円、A3 版については 170 円） カラー出力については 130 円（B4 判については 150 円、A3 版については 190 円）
ホ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を光ディスク（日本工業規格 X0606 及び X6281 に適合する直径 120 ミリメー	光ディスク 1 枚につき 300 円に当該文書又は図画 1 枚ごとに 70 円を加えた額	

写しの交付の見直しによるもの。

	の光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付			トルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付	
	ハ-2 スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を光ディスク(日本工業規格 X6241 に適合する直径 120 ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付	光ディスク 1 枚につき 500 円に当該文書又は図画 1 枚ごとに 70 円を加えた額		△ スキャナにより読み取ってできた電磁的記録を光ディスク(日本工業規格 X6241 に適合する直径 120 ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付	光ディスク 1 枚につき 500 円に当該文書又は図画 1 枚ごとに 70 円を加えた額
二 電磁的記録	イ 用紙に出力したものの交付	用紙 1 枚につき 30 円(B4 判及び A3 判、カラー出力についても同じ。)	二 電磁的記録	イ 用紙に出力したものの交付	用紙 1 枚につき 30 円(B4 判及び A3 判、カラー出力についても同じ。)
	ロ-1 電磁的記録として複製したものを光ディスク(日本工業規格 X0606 及び X6281 に適合する直径 120 ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付	光ディスク 1 枚につき 300 円		ロ 電磁的記録として複製したものを光ディスク(日本工業規格 X0606 及び X6281 に適合する直径 120 ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付	光ディスク 1 枚につき 300 円
	ロ-2 電磁的記録として複製したものを光ディスク(日本工業規格 X6241 に適合する直径 120 ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付	光ディスク 1 枚につき 500 円		ハ 電磁的記録として複製したものを光ディスク(日本工業規格 X6241 に適合する直径 120 ミリメートルの光ディスクの再生装置で再生することが可能なものに限る。)に複製したものの交付	光ディスク 1 枚につき 500 円

宮内公文書館利用等規則案 新旧対照表

(傍線部分は改正部分)

改正後	改正前	備考
<p>宮内公文書館利用等規則 第1章 総則 (目的) 第1条 [略] (定義) 第2条 [略]</p> <p>第2章 保存等 第1節 受入れ (宮内庁からの受入れ) 第3条 [略] 2 [略] (1) <u>生物被害への対処</u>その他の保存に必要な措置 (2) <u>識別を容易にするために必要な番号等</u>(以下「<u>識別番号</u>」<u>とい</u> <u>う。</u>)の付与 (3) 第11条第1項第1号に掲げる<u>利用制限事由</u>(以下「<u>利用制限事</u> <u>由</u>」<u>という。</u>)の該当性に関する事前審査 (4) [略] 3 [略] (寄贈・寄託された文書の受入れ) 第4条 [略] 2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、 寄贈又は寄託をした者の希望に応じ、利用の制限を行う範囲及びこれ が適用される期間を定めた上で、<u>次の各号に掲げる措置を</u>施し、原則 として受入れから1年以内に排架を行うものとする。 (1) <u>第3条第2項第1号に定める措置</u> (2) <u>第3条第2項第2号に定める識別番号の付与</u> (3) [略] (著作権の調整) 第5条 館は、前2条の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等に著 作物、実演、レコード又は放送若しくは有線放送に係る音若しくは映像 (以下この条において「<u>著作物等</u>」<u>という。</u>)が含まれている場合は、当 該著作物等について、必要に応じて、あらかじめ著作者、著作権者、実 演家又は著作隣接権者から著作者人格権、著作権、実演家人格権又</p>	<p>宮内公文書館利用等規則 第1章 総則 (目的) 第1条 [略] (定義) 第2条 [略]</p> <p>第2章 保存 第1節 受入れ (宮内庁からの受入れ) 第3条 [略] 2 [略] (1) <u>くん蒸</u>その他の保存に必要な措置 (2) <u>第6条第4項に定める識別番号</u>の付与 (3) 第11条第1項第1号に掲げる<u>事由</u>(以下「<u>利用制限事由</u>」<u>とい</u> <u>う。</u>)の該当性に関する事前審査 (4) [略] 3 [略] (寄贈・寄託された文書の受入れ) 第4条 [略] 2 館は、前項の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等について、 寄贈又は寄託をした者の希望に応じ、利用の制限を行う範囲及びこれ が適用される期間を定めた上で、<u>次に掲げる措置を</u>施し、原則として受 入れから1年以内に排架を行うものとする。 (1) <u>くん蒸</u>その他の保存に必要な措置 (2) <u>第6条第4項に定める識別番号の付与</u> (3) [略] (著作権の調整) 第5条 館は、前2条の規定に基づき受け入れた特定歴史公文書等に著 作物や実演、レコード又は放送若しくは有線放送に係る音若しくは映像 (以下この条において「<u>著作物等</u>」<u>という。</u>)が含まれている場合は、当 該著作物等について、必要に応じて、あらかじめ著作者、著作権者、実 演家又は著作隣接権者から著作者人格権、著作権、実演家人格権又</p>	<p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。 ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p> <p>ガイドライン改正に基づき修正するもの。 ガイドライン改正に基づき修正するもの。</p>